

問5

一般質問 7議員登壇



鶴 實友 議員

財部温泉センターに 歩行浴施設を！

市長／資金的問題もあるが検討する。

鶴實友議員

財部温泉

源の掘削により予定していた湧出量が確保されたと聞いている。

この際、温泉施設の充実と市民の健康増進をはかる為歩行浴施設を造ってほしいとの要望がある。

池田市長 スペースが
なく対応が出来ない。未



新たな泉源掘削される財部温泉センター

吉の施設を利用してほしい。

問 スペースは前の方に
充分ある。

市長 男女両方に造ること
になり、大がかりな増
設は金がかかる。今後検
討をして参りたい。

掘削価格はいくらか

問 掘削経費は予定価格
の何%で入札されたか。

市長 掘削により毎分7
0リットル、一日百トン、
38・6度であるが予定
価格は1億1
98万355
0円、落札価格
9765万円
で95・7%で
ある。(株)日
本地下技術が
落札した。適正
な入札価格と
考える。

小倉・七村線を 基幹道路に

問 現在、新田から高之
峰入口(七村)までと、
国道から小倉く七村線1
kmの道路整備が計画され
ている。この道路を直結
して七村の基幹道にすべ
きと思うがどう思うか。

市長 基幹道として、市
之坂く小倉線、平原下鶴
橋から小倉線を国道への
アクセス道としても考え
られる。

問 下鶴橋から国道への
アクセスは要望がない、
この道路はブロック等が
多く金がかかる。四集落
の駐在員会の要望は新田
から小倉線への直結であ
る。

市長 下鶴橋から七村を
通って末吉への連絡道と
しても考えられるという
ことである。路面的には
よいが現状では良くない
ので前向に考えながら検
討したい。中央線につい
ては、必要かどうか色々
な考え方がある。

問 音声が悪い、関係の
ないことが多い、聞きた
くないと言ってスイッチ
を切る。そんな苦情が多
く寄せられている。

従前通り旧町ごとに放
送する考えはないか。

市長 苦情については週
2回から毎日の放送に変わ
ることから放送回数、内
容等が増えた。3地区共
通する内容を効率よくお
伝えしたい。情報を発信
する重要なものであり、
広報内容検討等委員会を

旧町ごとに有線 オフトーク放送を



合併特例道路整備事業の小倉・七村線

設けて対応したい。

問 3地区共通の部分と
各町ごとにローカル化す
る考えはないか。

市長 合併して一体感を
はからなければと思っ
ている。当分は現在のま
まで行きたい。

問 アナウンサーの声が
聞き取り難いとのことだ
がどうするか。

市長 アナウンサーにつ
いては委託であり、業者
に伝えてある。

問 苦情が相当来ている
と思うがどうか。

市長 聞いている。これ
も委託業者に伝えてある。

埋め立て堆肥の撤去と訴訟の考えは

市長／法的な根拠がない

新 市政に



宮迫 勝 議員

宮迫勝議員

堆肥公害

で住民と認識を共有すべ
きだと思う。李比野と谷
ヶ峯の現場へ行かれたか。
池田市長 李比野には
行ったが谷ヶ峯へは行っ
ていない。

問 堆肥の不法投棄で訴
訟の考えはないか。

市長 法的根拠がないの
でできない。今後させな
いようにする。

問 今後埋め立てをさせ
ないのは当然である。地
元は今ある埋め立てた堆
肥の撤去を求めている。
市長 撤去を求める根拠
が見つからない。

問 水資源保護、環境保
全のための条例制定の考
えはないか。

市長 法を超えての条例
制定はできない。今後勉
強したい。

問 地元住民、中野集落

から安全安心な市水道の
設置を望む声がある。

市長 距離的にも経費が
かかりすぎる。今の段階
では無理である。

問 住民の声は切実であ
る。今後署名等を集めて
再度取り上げていく。



シートで覆われた堆肥

たい。

問 今年予算を70歳以
上の高齢者の人数で割れ
ば、一人2700円にな
る。全ての高齢者への支
給ができるではないか。

市長 今後高齢化率が33%
と予測される。全ての高

齢者への支給は
考えていない。

問 千円でも2
千円でもいいか
ら分けへだてな
く全ての高齢者
に支給をという
のが、圧倒的多
数の声である。
実現するまで今
後も取り組んで
いく。

敬老祝い金を 全ての高齢者に

問 敬老祝い金の節目支
給は多くの不満や批判の
声がある。全ての高齢者
に支給すべきではないか。

市長 合併協議会で御祝
い金として節目支給に決
まった。ご理解いただき

シルバー人材の 送迎車は続けるべき

問 車の便がなく現場ま
で行けなくなる人が出て
くる。送迎車は続けるべ
きではないか。

市長 シルバーの理念で
ある自主、自立でのぞみ
たい。

小学校に簡易の 照明設備を

問 財部水泳スポーツ少
年団はプール清掃を、手
出しで専門業者に依頼し
ている。地方財政法で学
校施設の維持管理・修繕
に父母の負担を求めている
ならないとある。まず現
場を調査して対処すべき
ではないか。

山元教育長 現場におも
むき、財政当局とも前向
きに対処したい。



日没後練習するサッカー少年団

問 コースロープが
割れたものを使用し
ている。点検して危
険と思われるものは
交換すべきではない
か。

教育長 現場には指
示を出してある。子
供にケガがあつては
ならない。応分の負
担は考えたい。

市長 安全が第一で
ある。早急に対処し
たい。

問 サッカーの少年
団から簡単なもの
も良いから照明設備
を求める声があるが、ど
う考えるか。

教育長 練習時間を早め
るとかナイター施設を併
用していただきたい。
問 ナイター施設を使う
には金がかかる。だから
父母はお願いしている。
この問題は今後も引き続
き取り上げていきたい。

問 小中学校の汲み取り
トイレを水洗化する考え
はないか。
教育長 年次的に漸時計
画し前向きに検討したい。

市長のマニフェストは 実行できるか

市長／職員を5年間で50人削減



徳峰 一成 議員

乗合タクシーの
運行の充実を

徳峰一成議員

旧3カ町の役場を中心に結ぶ「乗合タクシー」の運行など、

充実した交通体系の整備は急務ではないか。

池田市長 旧大隅町内を

まわるあらたな運行、あるいは旧3カ町の役場を結ぶ運行など、平成18年度中に実施したい。

課長職等の

削減を含む行革を

問 市長の公約である5

年間に50人の職員の減は、

ながら、毎年の図書購入予算が100万円ずつカットされている。数年前の700万円台にもどすべきではないか。

市長 移動図書館車を、

新規採用者を差し引き実質50人の削減か。また職員2人に1人は役職者である。課長等の役職者はずっと減らすべきではないか。

市長 実質50人の削減を考えている。今後課長など随時減らしたい。

女性委員枠の
検討委員会設置を

問 今後5年間に、各種

審議会の女性委員を40%に引き上げたいと公約している。これを手作業的にやるのではなく、検討委員会をつくり組織的に進めるべきではないか。

市長 よいご意見であり、その方向ですすめたい。

図書購入費の

予算をもどすべき

問 図書館の充実といい



全校児童 83 人が 5 年後は 35 人に (末吉町檜小)

強力な少子化対策を

問 今後5年間に檜小は83人から35人に、光神小は34人から14人に、旧大隅、財部をふくめ児童の減少が著しい。少子化対策は財源的にも最優先して、やれる点は全部やる重点政策にかかげるべきではないか。

特に旧末吉町で大きな成果を上げている、しかし、今中止されている、活性化住宅の建設を今後再開するよう、強く要求したい。

市長 活性化

住宅には財源がともなう。しかし少子化問題を放っておくわけにはいかない。今後やれるか財源を見きわめながらやる方向で検討してまいりたい。

公共施設の
赤字解消に取り組む

問 平成16年度の旧3カ

町の施設の収支について聞きたい。

市長 旧末吉町は19の施設で赤字は2億5781万円、旧大隅町は16の施設で赤字は1億295万円、旧財部町は17の施設で赤字は7666万円である。

問 施設の全体の赤字4

億3千万円は、市の一般財源で対応しなければな



収支改善に取り組む末吉総合センター

らない。私は20年ほど前から施設の収支の改善を要求し続けてきた。その後旧末吉町は施設ごとの収支改善の年次計画を立て取り組んでいる。旧大隅、財部の施設について収支改善の計画がないのなら、すべての施設について赤字解消の目標値を定めるべきではないか。庁舎のように収入のない施設は支出について改善をはかるべきだ。今後ともくり返し取り上げたい。

市長 今後、検討させていただきます。

財部工業団地隣りを宅地分譲する考えは

市長／少子高齢化対策として他の地区に計画



井手上博文 議員

井手上博文議員 市長は過疎対策或は人口流失防止の一環として、曾於市財部町工業団地に隣接する私有地財部町下財部字並松添一六三八番一面積6253㎡同じく下財部字並松添一六四四番一面積5182㎡合計1万1



財部町新並木の工業団地周辺

435㎡を買収し、曾於市活性化のためにも宅地分譲をする考えはないか、伺いたい。

池田市長 県道からの進入路が狭く幅員4mの農道で以前から財部町に買い上げの依頼があり、平成16年度には工業団地、住宅団地の両面から検討がなされ、現在のところ企業誘致はきびしいので

市独自の少子化高齢化対策は

ります。

問 少子化、高齢化については全国的なものであります。国の対策、県の対策もそれぞれおこなわれております。市長は市独自としてどのような対策を考えておられるのか、また特に幼児教育対

策について伺いたい。ことでは工業団地としての開発は断念され、住宅団地としては平成16年11月より今の土地の近くにたからニュータウン48区画を分譲販売をいたしております。同地区に集中するということから他の地区にも計画をし少子高齢化対策には適切ではないと住宅地としては断念されたところであ

策について伺いたい。

市長 国地方を問わず大きな課題で国におきましては平成15年次世代支援対策推進法が制定され少子化対策は自治体や事業主の責務とされておりまして。曾於市におきましても児童数は過疎化の傾向にあり保育所児童総数は850人で平成20年度には686人となる見込みであります。少子化社会をむかえ核家族化労働形態に大きな影響を及ぼしており今後の児童福祉対策はきわめて重要な課題であると考えております。本市の対策としては、本年3月に合併を前提に策定した次世代育成行動計画に基づき児童を健全に育成するために安心して生み育てることの出きる支援社会の形成に向けた行政施策を推進して行くところであります。

財部町私立学校助成の継承を望む

問 私は特に財政支援が

必要と思っております。それは昭和46年7月30日制定された財部町私立学校助成条例第四条第一項及び財部町私立学校助成交付規則を継承してもらいたいと思っておりますが、市長はどんな考えか伺いたい。また市長は少子化の歯止めほどのようにしたら良いかと思っておりますのか、伺いたい。

とりくまれるということも大事だと思えますが、近隣の都市にありません。大隅末吉にあるわけですが行政からの助成金というものは全くなされておりません。財部にあります幼稚園だけに行政からの助成がなされている状況であります。そのようなことを考慮しますとやはり学校法人として独立した形で頑張っていただいたいと思っております。



財部町の曾於市立南保育所にて

子育て支援策として 入学卒業祝金の支給を

市長／貴重な意見として調査検討する



永吉 正 議員

永吉正議員 合併協議の中で、敬老祝金節目支給制度移行や、敬老会補助金廃止に対し一部には強い不満の声がある。又、反面、毎年支給制度による若者負担増を危惧される高齢者もある。少子高齢化社会対策の中で、子育て支援対策等の国策を始め、市町村段階でも色々打出されている。本市でも代替策として、敬老祝金等節目支給による剰余金を、子育て支援策として入学卒業時等に祝金を節目支給し、継続的支援策として目に見える具体

策を創設すれば、高齢者の理解が得られると思うかどうか。

池田市長 少子高齢化社会対策は大事であり、本市もその方向で進んでいる。従来の敬老祝金から節目支給に際して、一人当りの金額は上がっている。



祝福される新1年生（末吉町高岡小）

るが、市の持ち出し分は1400万円浮いてきた。一方では、児童福祉費、児童運営費、町立の保育園費、子ども発達支援センターこうしたものに、16年度から17年度に、国県補助もあるが、5282万円の増となった。このように一般財源の支出が逆に増えたが、児童生徒に対する節目の祝金は、支援事業の貴重な意見として参考にし調査検討する。

市全体を結ぶ 福祉バスの運行を

副 高齢者及び身体障害者等弱者への福祉対策として福祉バスは、財部・末吉、それぞれ旧町の範囲内で運行されている。旧3町合併にて曾於市となった以上、市全体の、公共施設、医療機関、商業施設を網羅した、バス路線の充実、お互いの交流を深め、曾於市全体の一体感を創造するためにも不可欠に思うが、考え方はどうか。

市長 高齢者等の中には交通手段を持たない人もいる。末吉財部は地域交通ネットワークを確立している現状を踏まえ、民間バス会社と連携を図りながら大隅町を含む市内全域での路線再編を確立し、18年度中に実施出来るように努力する。



末吉・財部町で運行されているバス

曾於市の現状と課題 将来性をどう思うか

副 市長は市長選の選挙活動で曾於市内を隈無く巡回されたと思うが、曾於市全体の現状と課題、将来性を基本的にとどのようか思ったか。また、市長として各種行事等に何回くらい参加され、印象等をどう感じられたか。

市長 曾於市全体は非常に広く、耕地も広大だが、

山間部も多く、災害対策の必要性和道路整備等の必要性を思うと共に、各地域の均衡性を保ち、早く一体感を図りたい気持である。各種行事には、約20回位参加した。敬老会、運動会、十五夜等に参加したが、従来の補助金がらみの行政主導型から、補助金なしの住民主導型で色々な行事を組み合せ、子供から高齢者までの各年代参加型の工夫された行事催しが多く感じた。今後は、模範地域自治体として、近隣に普及していく必要性があると思った。

長寿祝金支給は 70歳以上の全ての人に

市長／財政面から考えても困難



今別府孝治郎 議員

今別府孝治郎議員

敬老

祝い金については、これまで旧3カ町で長年に渡り、70歳以上全ての高齢者にとって年1回の敬老祝金は、大変喜ばれ定着していた施策でした。ところが、今年から節目支給となり、曾於市全体の

70歳以上1万629人のうち、7割超の高齢者には支給されません。これは高齢者福祉の大幅な後退であります。合併によって切り捨てられる住民サービスでよいのでしょうか。長寿祝金(節目)支給は、白紙にもどし、70歳以上全ての高齢者に対し、公平・平等に支給する考えはないのか伺います。

選挙公約はどのが取り組むか
合併にあたっては幾多の紆余曲折がありましたが、7月1日より曾於市が誕生しました。市長は選挙公約として、又、者の急速な高齢化率が進む中現在の市の財政面から考えても困難であり、70歳以上全てに祝金を支給することは無理であります。



市内の70歳以上は10,629人

所信表明において大きく五つの項目を柱として掲げてありますが、どう取り組んでいられるのか。基本的見解を伺います。

- 市長** 具体的施策として大きく五つの項目を柱として立てて、取り組んでいきます。
- 1、健全財政の確立を進め、ざした市政経営を進めます
 - 2、人と自然が共生し、地域資源を生かしたまちづくりを進めます
 - 3、個性豊かな人づくり、教育文化のまちづくりを進めます
 - 4、快適で住みよい、住んでみたい安心して暮らせる安全なまちづくりを進めます
 - 5、少子高齢化社会を健やかに支え合う福祉のまちづくりを進めていきます。



快適で住み良いまちづくり

市長 助役一人収入役一人より色々な面で有利に行政を進められる。また健全財政を進める中で、人件費を節約するのが一番である。行政サービスを低下させてまで削減の必要はないが、行政サービスを劣らせないよう取り組んでいきます。

次の定例議会は12月です 傍聴席はあなたが主役

議会を傍聴することは、市民として市政を知る最もよい方法です。ぜひ、議会を傍聴しよう心がけましょう。定例会は、3月・6月・9月・12月です。議会を傍聴されたい方は、議会事務局までお問い合わせ下さい。

☎0986-76-1111 (内線1311)

在宅寝たきり老人介護 手当の対象期間見直しを

市長／検討させていただきたい



五位塚 剛 議員

五位塚剛議員 在宅寝たきり老人等に対して介護

手当での助成があるが、6ヶ月以上寝たきりでないと対象になっておりません。対象期間を見直ししてほしいとの声がある。介護者を支援する立場からも見直しすべきではないか。

末廣市民福祉部長 この制度は全市民的に1万円の介護手当助成を始めたばかりである。検討課題として考えていきたい。

問 市長も自宅で介護してもらった方が、財政的に市の負担が少なくなる

小規模水道組合への 支援確立を

問 曾於市内で市の上下水道や簡易水道を利用されていない、自治会、組合はいくらあるのか。

市長 末吉町区で9ヶ所、大隅町区では43ヶ所、財部町区では36ヶ所の合計で88ヶ所です。

問 曾於市内で88ヶ所が組合方式である。このすべてが小規模水道事業補助の対象地域になるのか。

市民福祉部長 小規模水道

道施設事業の補助対象組合であれば、事業費の3分1以内の補助対象となる。

介護者の負担軽減を図る研修会



問 畷ヶ山水道組合が水道施設のポンプが故障したので、施設補修について補助申請されたが、池田市市長名で却下された。その理由を示してほしい。

市長 今回は施

設の新規ではなく、落雷によるポンプの故障であるため、補助対象外になって申請を却下した。

問 条例では新規事業という項目はない。市長がやむをえないと認める事もできるものではないか。

北部畑かん事業は 中止すべき

問 末吉地区の農家を

含めて財部・大隅の農家からも、北部畑かんはやめていただきたいの声が多い。414億かけたムダな事業。そして農家の要望のない大型畑かんはやめるべきではないか。

市長 曾於北部はシラス地帯であり、現在は雨水による営農しかできない。平成8年に95%の同意がされているので、事業を中止する考えはありません。

問 畑かん事業説明書では平成8年に事業を開始し平成19年度に完成するとなっている。実際の完



甘藷畑のスプリンクラー（大隅町西原地区）

成は何年度を予定しているのか。

福田産業経済部長 平成23年度を予定している。

問 農家は今後10年15年後の完成の事業はやめていただきたいと言っている。池田市市長は今後の水を利用する農作物は何を考えているのか。

市長 農業の形態はいろ

いろ変わってくる。20年後30年後に水を必要とする時が必ず来ると考えている。

問 大型畑かんではなく水が必要とする農家へは、ボーリング方式の補助を支援した方が早くできる。今後も取りあげていく。